

# エージェンシー Agency

学校教育目標「みんなの笑顔があふれる学校」

大津中学校通信 令和5年1月11日号

学校経営の4つのキーワード

③「私たちの学校は私たちが創る」

・手段と目的を明確化し、合意形成を図る

## 幸多き年に！



遅くなりましたが、明けましておめでとうございます。本年も皆様にとって、幸多き年となりますようにお祈り申し上げます。さて、学校の玄関には大きな「卯」の文字が飾ってありますが、その横で3年生が黙々と「無言清掃」をしていました。一月の生活目標は「無言清掃を極めよう」！授業にも、掃除にも真剣に取り組む3年生全員に、吉報が届けられることを心から願っています。  
**(吉報といえば、古賀紗理那先輩、ご結婚おめでとうございます！)**



無言清掃

### 年頭の所感

「信頼して、任せて、支える」

大津中学校 校長 平岡 馨

子どもたちを「信頼して、任せて、支える」これこそが教育の基本であると私は常々考えています。子どもは必ず成長するものだと信頼し、いろいろな経験や判断ができるように任せ、やりたいことがやれるようにとことん支える。そして、最後まで忍耐強く待つ。しかしながら、私たちは時にこれを忘れてしまいがちです。つい先回りをして、失敗させないようにする。探めごとになっても、さっさと大人（教師や保護者）が解決してしまおう。本来これほど教育の本質から隔たったことはありません。今、子どもたちに求められるもの。それは、「トラブルを学びに変える力」だと思います。考え方や価値観が違う人間と一緒に生活するのですから、対立はあって当たり前。それを「暴力」や「いじめ」などで解決するのではなく、「対話」（コミュニケーション）によって乗り越えていってほしいと願っています。

また、この「信頼して、任せて、支える」という理念は、先生方に対しても同じだと思っています。近頃「サーバント・リーダーシップ」という言葉をよく聞きますが、校長の本来の役目は「フォロワーのために働く」ことではないでしょうか。子どもたちにどんな資質・能力を育てたいのかといった基本的な理念やマインドが共有されたら、あとは先生方が自走できるシステムを整えていく。つまり、先生方がやりたいことを応援して、それを実現できる環境を創っていくことが校長の重要な役割だと考えます。

最近の社会風潮として「与えられたことはきちんとできるが、主体性に欠ける」「トラブルが起こるとすぐに他人に責任転嫁してしまう」といった傾向が強まっています。だからこそ「信頼して、任せて、支える」教育の実践は、時代のニーズにも合致していると感じています。

そこで年度当初の四月に「私たちの学校は私たちが創る」というスローガンを提示しました。当たり前ですが、学校はそこに通う一人ひとりが主役です。生徒も先生も学校生活の中で、「こんなことができたら楽しそうだな」とか「もっとこうなればいいのに」と思うことがたくさんあるはず。その時にこれまでの常識にとらわれずにやりたいことに思い切って挑戦してもらいたい。自分しかできないことを見つけ、「人任せにしない」「人のせいにもしない」という気持ちで、「私たちの学校は私たちが創る」という経験を積み重ねてほしいと願っています。

もちろん、校長として学校で起こることの最終的な責任は全て自分が負うという覚悟を忘れてはいけません。普段は生徒や先生方を「信頼して、任せて、支える」立場に徹し、「校長先生がいなくても、自分たちでやれるから大丈夫です」と言われるような学校づくりに目指したいと考えています。

そのためにも、今後とも保護者や地域の皆様方には、本校教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。